

令和4年度 第3回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録（案）

■日時：令和5年2月17日（金）15時30分～17時00分

■場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室

■出席委員：肥塚座長、加藤副座長、岡井委員、阿部委員、秦委員、松浦委員、木村 睦委員、伊庭委員、正木委員、笠井委員、木村 沙紀委員、小林委員、卓委員

■欠席委員：田畑委員、清家委員、神部委員、東野委員、有村委員

■傍聴者：なし

■事務局：木村部長、岸本副部長、角副所長、竹中チーフディレクター、辻会計年度任用職員、布施担当課長（立命館大学地域連携課）、大藪課長補佐（立命館大学地域連携課）

1.開会

【事務局】

皆様、こんにちは。定刻になりましたので、只今より令和4年度第3回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。それでは始めに、総合政策部長の木村が御挨拶申し上げます。

【木村部長】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。総合政策部の木村でございます。さて、令和4年度も残すところあと1か月と少しとなってまいりました。今年度もUDCBKではオンラインを活用しイベントを実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら様々な事業を行ってきたところです。来年度には新型コロナウイルス感染症も2類から5類に移行されることが発表され、行動の制限も緩和されることになってまいります。そうした中で、令和5年度はオンラインによる協議や会話の便利さもあるものの、やはり地域の皆さんと集まり話し合いながらUDCBK事業を盛り上げて参りたいと考えております。今後もアフターコロナを見据えながら、産学民のみなさまと連携し、事業に取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうか本日も忌憚のない御議論、御意見をいただけますようお願い申し上げます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

【事務局】

それでは、次に配布資料の確認をさせていただきます。本日の次第、資料1「UDCBK令和4年度 実施事業報告」、資料2「UDCBK令和5年度実施予定事業（案）」、

資料2-1「令和5年度事業予定について」、資料3「UDCBKの開室時間について」および当懇話会の名簿を付けさせていただいております。また、参考資料としまして学習事業や社会実験等のチラシを付けさせていただいております。皆様のお手元にごさいますでしょうか。また、本日は田畑委員、清家委員、神部委員、東野委員、有村委員が都合により欠席となっております。それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。議事の進行は座長の肥塚様にお願いをしたいと思います。肥塚座長よろしくお願ひします。

2. 報告

【座長】

議事進行をさせていただきます座長の肥塚でございます。今年度第3回目で最終ということで、今年度のUDCBKの事業も終盤に差し掛かっているところでございます。令和4年度事業の報告をしていただきますが、どのような成果があったのか、また、令和5年度にどのようにつなげていけば良いのかなど、委員の皆様からはそれぞれの分野から御意見をいただき今後の事業運営に役立てて参りたいと考えております。それではこれより議事に入らせていただきます。次第の「2. 報告」でございます。資料1「UDCBK令和4年度 実施事業報告」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料の説明)

【座長】

ありがとうございます。委員の皆様から今の説明について、何か御意見や御質問等がございますでしょうか。

【A委員】

法人化検討のところで全国UDC会議に参加されたとのことですが、これは定期的に行われているのでしょうか。

【事務局】

毎年開催されています。ここ2年間はコロナの影響がありオンラインで行われていましたが、今年度は神戸で参加させていただきました。

【A委員】

全国のUDCの会合ということではいろんな実りがあったのではないかと思うのですが、

意見交換の中でUDCBKに適用できそうなアイデアや意見はありましたか。

【事務局】

UDCBKと他のUDCでは形態が違う面もありますが、来年度からは成果に重視していこうと考えております。UDCBKは今まで学習事業が中心になっており、そこからの発展がなかなかできていませんでした。他のUDCは実践的というか社会実験中心というところが多かったような印象を受けます。市の施策や、自分たちが社会実験までしていくようなUDCが多かったように思います。

【B委員】

去年からインスタグラムの情報発信を始めたということですが、市民の方の巻き込み方としてSNSを活用してDMで申し込みができるとか、もっと簡単にできるような巻き込み方ができたら良いのではないかと思います。次年度はSNSを発信だけでなく、市民の方が入りやすくするための手段として活用出来たら良いのではないかと思います。

【事務局】

頂いた御意見を参考にさせていただいて、発信だけではなく受ける方も少し工夫ができたらと思っています。

【C委員】

今の御意見に関連してUDCBKのホームページについて改良していただきたいなと思う点があります。トップページを見てみるとスクールやセミナーの報告書は一覧で羅列されているのですが、次にどんなイベントがあるのか分かりにくいと思います。行政のホームページの一部に属しているので難しいかもしれませんが、分かりやすくイベント開催日時や詳細が確認できて、そこから参加申し込みもできるようにならないでしょうか。そこは工夫していただきたいと思います。

【事務局】

市の統一したホームページの中にありますのでなかなか難しい面もございますが、分かりやすい見やすいホームページを工夫していけたらと思っています。

3. 協議

【座長】

続きまして、次第の「3. 協議」でございます。資料2「UDCBK令和5年度実施

予定事業（案）」、資料2-1「令和5年度事業予定について」、資料3「UDCBKの開室時間について」を一括して事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料の説明）

【D委員】

都市デザインの構想事業の中で、「まちづくりを進めるための人づくり」を一つの目的に挙げられていますが、人づくりとはどんなイメージでしょうか。

【事務局】

例えば公園を活用していこうと考えた場合に、市が全て主催してイベントを行うのではなくて、いろんな人々が話をしながら自分たちでイベントをする、手続きをする、管理をする、そういったところまで踏み込んでやっていけたらと考えています。全部市が指示するのではなく、やりたい人が自分たちで活用しながら考えながらやっていただくという方向に持っていけないかと思っています。

【D委員】

それは具体的にどういう人々を想定しているのでしょうか。どこから呼んでくるのか、そのあたりはどうでしょうか。

【事務局】

どういった方々に集っていただくかというのは非常に重要なところだと思っています。後期のアーバンデザインスクールの中で、集まった方々が自分たちでルールを決めて公共空間を活用していくという事例がありました。それを実際に行っていくことは難しいかもしれないということは今年度スクールを通して学ばせていただきましたので、次年度はそういった形の方向に持っていけるように進めていきたいと考えています。

【A委員】

スクールの対象が誰かというところがすごく大事なポイントだと思います。スクール参加者に何を学んでもらうかの設定によって、対象者が全く変わってくると思います。例えばファシリテーションの手法を学ぶとか都市デザインについて学ぶ内容にするとそれに興味のある学生さんがたくさん集まってくるかもしれないし、南草津のまちをテーマにすると年齢問わず市民の方が多く集まってくるのではないかと思います。今現在スクールで学ぶこととしてUDCBKが設定されているイメージがあれば教えて下さい。

【事務局】

来年度のスクールでは学ぶだけでなく、さらに参加者の皆さんと一緒に考えてそれを最終的には市の方に提案するところまでやりたいと思っています。参加者の対象についてですが、公共空間をテーマとした場合はその公共空間を使われる方を対象にしたいと思っています。例えば南草津駅周辺を対象にするのであれば実際に南草津駅を使われる方やその周辺に住まわれている方、事業を展開している方、近隣の学校や企業に通われている方を対象にしたいと考えています。

【座長】

テーマは市の関係部署と調整と書いてありますので、市の施策の具体的な課題と結びつけてやっていくと思います。市が求めていることを提案しても反映されないと思われるので、そこは考えていく必要があると思います。

【E委員】

最近公募委員の間でもこんなことをしたいねという話が出てきています。スクールでの学びの順番についてですが、こんなことをしてみたいというアイデアよりも先に、こうしたら提案が通るよという手法を学んでしまうと、案自体が出てこなくなるような気がしたので意見をしたいと思いました。先にアイデアをふるいにかけるのではなく広く集めて、その後に市民グループが自分たちで実施できるやり方を学ぶというようなその手順をもう少し考える必要があるのではないかと思います。

【事務局】

スクールをさせていただく際にいろんな方からいろんな意見を出していただくということは非常に大事なことだと考えています。まずはいろんな意見を出していただいて、その中で皆さんとワークショップ等させていただきながら合意形成を図るという形で進めていけたらと考えています。

【F委員】

スクールの申し込みの段階で参加者にやりたいこと、要望を聞いてから市の担当者と話し合い、それに応じてスクールの手法を変えたり行政職員にも参加してもらったりというのは、前期後期で工夫すればできるのではないかと思います。どうでしょうか。

【事務局】

次年度のスクールでは1年間を通して一貫して同じテーマでやらせていただきたいと考えております。市民の方からの提案につきましては出来るだけお聞きして進めていけ

たらと思いますが、やはり市の課題を解決していくということも大事だと考えておりますので、テーマの決定については市と十分に調整を図らせていただいて、市が求めているものに対してUDCBKの方も一定の案を出すことで施策への反映ができてくると思っております。確かに市民の皆さんからの御提案は大変ありがたいところですが、市が求めているところで提案を図っても反映されないと思っておりますので、そこは市の関係部署と調整しながらやっていきたいと考えています。

【B委員】

次年度は市に提案をしていくということなので、草津市が持っている課題を挙げてそれを解決するための人を募集するというふうに、募集方法を具体的にしていく必要があります。前回の懇話会では行政に頼らないまちづくりのリーダーを育成するという話を聞きましたが、今回のスクールは応募されてきた方の中からリーダーを決めて役割を決めて自分たちでテーマに向けて進めていくというメッセージを募集の段階でしっかりと明示すべきだと思われました。意欲のある市民グループが最後市に提案するというところまでうまく進めばいいなと思います。市民からの提案についてですが、市民が見えているものと行政の立場で市全体を見ているものとは視点が違うと思うので、そこはUDCBKの場所を活用して解決の糸口がつかめるようなスペースとして問い合わせ窓口の役割ができればいいのではないかと思います。

【事務局】

スクールの参加者募集の中身についても気を付けながら進めていきたいと思っております。

【E委員】

次年度からのUDCBKの開室時間の変更についてお聞きします。南草津駅周辺で自習できるところを検索すると、南草津図書館とUDCBKが出てきます。学生さん達は駅近くに無料で自習できるところがあるんだという意識で集まってくると思いますが、開室時間の変更により学生さんたちの間で混乱が生じないかと思っています。どのように思われますか。

【座長】

これは以前にも懇話会で話題に挙がった内容で、南草津駅周辺で学生が勉強できる場所は必要であるけれどもそれがUDCBKである必要はないのではないかという議論がありました。これは市が課題として受け止めつつ、UDCBKとしては、まちづくり事業に関心がある方々に集まっていたきたいと思っています。そのような検索結果が出てくるような状況ということですので、現場で混乱が起きないように留意していく必要があると思います。

【A委員】

開室時間の変更について、統一して分かりやすくすることは良いことだと思います。そもそもUDCBKはまちづくりについて利用する場なので学生の自学自習に対してそこまで意識する必要はないようにも思いますが、一方で学生たちがまちづくりに興味を持つきっかけ作りの場として有効ではないかと思っています。質問ですが、19時以降の利用者は学生が80%以上を占めていて、利用者数としては全体で691人というのは1年間全体の総数でしょうか。

【事務局】

これは令和4年1月から12月までの1年間の総数です。

【A委員】

単純に計算すると、その時間帯の利用者は2人程度ということでしょうか。その方々の利用目的が勉強や休憩ということであれば、19時以降は閉室しても良いと思います。ただ、学生にまちづくりに興味を持ってもらえるきっかけ作りというところは引き続き取り組んでいただけたらと思います。

【E委員】

確かに打合せでUDCBKに伺うと学生さんが勉強している様子をよく見ます。アンケートで自習スペースをきっかけにまちづくりに興味を持った等の意見はありますか。

【事務局】

アンケートでそのような意見は挙がっていませんが、開室時間を変更することによって19時以降ではなく違う時間帯で興味を持ってもらえるよう工夫していきたいと考えています。

【座長】

その他、御意見や補足等がございますか。

【G委員】

都市デザインマネジメントスクールについて、便宜上全5回となっていますがまだ完全に決定していないので柔軟に変えていくことはできると思います。去年までは南草津駅前やフェリエについて考えてきましたが、そのあたりのことは市の施策とも合致しています。東山道公園の活用については公募委員の皆さんも議論だけでなく行動に移したいという思いがあると思いますが、最初にブレストしながらそれを実現するためにどう

いう人に手伝ってもらったら良いか、どういう専門家に教えてもらったら良いか等話し合い、スクールを開催して講義やワークショップを行い、社会実験をやっていくチームを作っていくながら専門家がそれを支援するというようなことを一つでも二つでもできれば良いのではないかと思います。そして南草津をより良くするためのアイデアを持たれている方がたくさんいる中でそのアイデアを受け取る場が今までなかったので、それをUDCBKの仕組みの中でやっていくということが重要だと思います。スクールのテーマが市の施策に合致していないとだめではなく、市の施策が市民の要望に合わせていかなければならないという考えもあります。また社会実験準備事業ですが、先ほど話題に挙げたUDCBKのオープンスペースの使い方も含めて全部が繋がっていく話だと思っています。今日の議論はいろんな事業が全てつながっていく話なので、それを整理して年度当初に示さないといけないと思っています。次年度もいろんな面で御協力をお願いいたします。

【A委員】

私たちは公募委員であり市民であり、草津市を盛り上げたいという思いがあります。セミナーやスクールに参加して学んだことは大きいけれどアウトプットが出来ていないという思いがあったので、次年度の都市デザインマネジメントスクールにはとても期待をしています。だからこそ内容やターゲットがとても重要になってくると思うので、いろんな立場の人たちの意見を聞いていただいてスクールをどのようにしていくか考えていただければと思います。

4. 閉会

【座長】

そろそろ時間がまいりました。委員の皆様にはスムーズな議事の進行に御協力賜り誠にありがとうございました。これで全ての議事は終了いたします。それでは事務局へ返します。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、貴重な御意見ありがとうございました。本日いただきました御意見を今後のUDCBKの運営および事業展開に反映してまいりますので、引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。それでは本日の運営懇話会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。